



2020
2



目次

2020年 2月
February 2020

オペラ演奏会形式『カルメン』によせて マエストロ チョン・ミョンフンからのメッセージ	3
プログラム	4
歌劇『カルメン』の物語	5
出演者プロフィール	6
楽曲紹介	12
特別エッセイ 「セビリャのカルメン —— 太陽、ロマ、闘牛士そして自由」	16
マエストロ チョン・ミョンフン 2020シーズンの出演情報	19
Message to "Carmen" in concert style from Maestro Myung-Whun Chung	21
Program	22
The Story of "Carmen"	23
Artists Profile	24
Program Notes	30
Next Subscription Concerts	36
3月／4月の定期演奏会	38
3月定期 連作交響詩『わが祖国』の聴きどころ インタビュー ミハイル・プレトニョフ	39
Photo Reports	42
2020シーズン 定期演奏会 ラインナップ	44
2020シーズン 午後のコンサート ラインナップ	47
賛助会	48
ご支援のお願い／チケットサービスより	51
東京フィルハーモニー交響楽団／楽団員一覧	55
理事・監事・事務局一覧	58

お願い： 演奏中はお手持ちの時計や電子機器のアラームが鳴らないようご注意ください。携帯電話、スマートフォン、タブレットなどの電子機器は電源をお切りくださいますようお願い申し上げます。

演奏中および楽章間の入退場は他のお客様のご迷惑にもなりますのでご注意ください。

Attention: Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during the performance.
Late admittance will be refused during the live performance.

オペラ演奏会形式『カルメン』によせて マエストロ チョン・ミョンファンからの メッセージ

「とてもよく知られたオペラは、
時々、コンサート形式で演奏するのが良い」

©上野隆文

『カルメン』は熱いオペラですね。とても情熱が求められる。有名すぎて、軽くみられることもあります。スコアを読むと、深い情熱が込められたオペラであることが分かります。ビゼーのイマジネーションには驚嘆させられます。

オペラの演奏会形式での上演は、視覚的な楽しみはありませんが、完全に音楽に集中することができます。すなわち、目をつむってシーンを想像し、耳で音楽に集中するのです。音楽的な見地からすれば、オペラの舞台上演は、歌手の動きなどもあり、妥協をしなければなりませんし、音楽の親密なディテールも犠牲にされます。とてもよく知られたオペラは、時々、コンサート形式で演奏するのが良いと思っています。

(2019年のインタビューより／ききて：山田治生)

※本公演では指揮者の意向により、ダイアローグを一部カットして演奏いたします。

第131回東京オペラシティ定期シリーズ

終演予定22:00

2.19(水)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第932回サントリー定期シリーズ

終演予定22:00

2.21(金)19:00開演 サントリーホール

第933回オーチャード定期演奏会

終演予定18:00

2.23(日・祝)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

指揮：チョン・ミョンファン

カルメン(ロマの女)…………… マリーナ・コンバラート(メゾ・ソプラノ)

ドン・ホセ(伍長。テノール)…………… キム・アルフレード(テノール)

エスカミーリョ(人気闘牛士)…………… チェ・ピョンヒョク(バリトン)

ミカエラ(ホセの婚約者)…………… アンドレア・キャロル(ソプラノ)

スニガ(ホセの上官)…………… 伊藤貴之(バス)

モラレス(伍長)…………… 青山 貴(バリトン)

ダンカイロ(密輸業者の親方)…………… 上江隼人(バリトン)

レメンダード(密輸業者の子分)…………… 清水徹太郎(テノール)

フラスキータ(カルメンの仲間)…………… 伊藤 晴(ソプラノ)

メルセデス(カルメンの仲間)…………… 山下牧子(メゾ・ソプラノ)

合唱：新国立劇場合唱団(合唱指揮：富平恭平)

児童合唱：杉並児童合唱団(児童合唱指揮：津嶋麻子)

コンサートマスター：三浦章宏

照明：石川紀子(A.S.G.) / 照明操作：A.S.G. / 字幕：増田恵子(台本原訳：和田ひでき) / 字幕操作：Zimakuプラス

ビゼー：歌劇『カルメン』(演奏会形式：全3幕・フランス語上演・字幕付)

前奏曲(約4分)

第1幕 セビリヤのタバコ工場の前の広場(約50分)

間奏曲(約2分)

第2幕 セビリヤの城壁近くのリーリヤス・パステアの酒場(約40分)

— 休憩(約20分) —

前奏曲(約3分)

第3幕 第1場 山の中(約40分)

間奏曲(約2分)

第2場 セビリヤの闘牛場の前(約20分)

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会

公益財団法人 花王 芸術・科学財団 (2/21)

公益財団法人 三菱UFJ信託芸術文化財団(2/21)

公益財団法人 ロームミュージックファンデーション(2/21)

後援：駐日韓国大使館 韓国文化院、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

協力：Bunkamura (2/23)



2020年2月19日/21日/23日

チョン・ミョンフン指揮

オペラ演奏会形式『カルメン』
ビゼー／歌劇

物語

19世紀、セビリャ(スペイン)。

自由奔放なカルメンに、

まじめな連隊伍長ドン・ホセが恋をする。

ホセの許婚ミカエラが

彼の母親の病状を伝えに来たが、

ホセはカルメンが属する密輸団の一味に加わってしまう。

ホセに飽きたカルメンは

人気闘牛士エスカミーリョと恋仲に。

場面は闘牛士の広場。

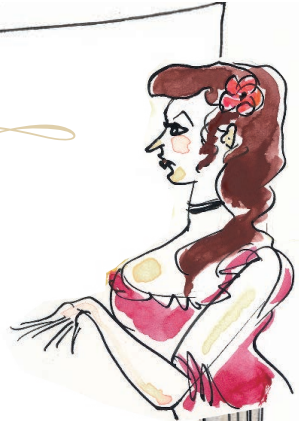
エスカミーリョを闘牛場へ送り出した

カルメンの前に、よりを戻したいとホセが現れるが、

カルメンは拒絶して指輪を投げ捨てる。

エスカミーリョ勝利の大歓声の中、

逆上したホセはカルメンの胸に短刀を突き立てる。



Chia / 4.

2/19

2/21

2/23

出演者プロフィール

2/19

2/21

2/23



©ヴィヴァーチェ

指揮

チョン・ミョンフン

Myung-Whun Chung, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 名誉音楽監督

韓国ソウル生まれ。マンネス音楽学校、ジュリアード音楽院でピアノと指揮法を学ぶ。1974年チャイコフスキー国際コンクール ピアノ部門第2位。その後ロスアンジェルス・フィルにてジュリーニのアシスタントとなり、後に副指揮者。ザールブリュッケン放響音楽監督および首席指揮者(1984～1989)、パリ・オペラ座バステューユ音楽監督(1989～1994)、ローマ・サンタチェチーリア管首席指揮者(1997～2005)、フランス国立放送フィル音楽監督(2000～2015)。現在は名誉音楽監督)、ソウル・フィル音楽監督(2006～2015)、シュターツカペレ・ドレスデンの首席客演指揮者(2012～)など歴任。1997年に本人が創設したアジア・フィルの音楽監督も務める。

2001年東京フィルハーモニー交響楽団のスペシャル・アーティスティック・アドヴァイザーに就任、2010年より桂冠名譽指揮者、2016年9月に名誉音楽監督に就任。ピアニストとして室内楽公演に出演するほか、アジアの若い演奏家への支援、ユニセフ親善大使、アジアの平和を願う活動など多岐にわたり活躍している。

カルメン(メゾ・ソプラノ)

マリーナ・コンパラート

Marina Comparato, Carmen (mezzo soprano)

イタリアのペルージャ生まれ、フィレンツェで声楽を学び、1996年『セビリアの理髪師』ロジーナ役でロンドン・デビュー。同年ローマのV.プッチ・コンクールで20世紀作品を歌い優勝。翌年スポレート・コンクールでも優勝し、『皇帝ティートの慈悲』にセストとして出演。以来、ミラノ・スカラ座、パリ・オペラ座、グラインドボーン音楽祭、ザルツブルク音楽祭他、各国の主要劇場より招聘を受けている。またロンドンのロイヤル・アルバート・ホール、バービカン・センター、アムステルダム・コンセルトヘボウ他多くの主要ホールにも出演している。2017年ヴェニス・フェニーチェ劇場でマエストロ・チョン指揮『カルメン』主役デビューして以来、カルメンは国内外で最も多く演じた役の一つとなった。



©Giacomo Orland

ドン・ホセ(テノール)

キム・アルフレード

Alfred Kim, Don José (tenor)

キム・アルフレードは、1996年にソウル「芸術の殿堂」初の企画オペラであるオペレッタ『こうもり』、ソウル市立オペラ団『ホフマン物語』と主役に抜擢され“スターテノールの誕生”という注目と賛辞の中でデビューを成功させた。その後、1998年「ミュンヘン国際音楽コンクール」声楽部門で1位なしの2位と特別賞を受賞。2002年パリ・プラシド・ドミンゴ国際声楽コンクールで特別賞を受賞して実力を認められたキムはロンドン・ロイヤルオペラハウス、ウィーン国立歌劇場、パリ国立オペラ、マドリッド王立劇場、バルセロナ・リセウ歌劇場、ベルリン国立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、バイエルン国立歌劇場、ニューヨーク・メトロポリタン歌劇場など世界最高峰の歌劇場に主演として招かれ世界的テノールとして活躍している。



エスカミーリヨ(バリトン)

チェ・ビョンヒョク

Byunghyuk Choi, Escamillo (baritone)

ドナート・レンツェッティ指揮レオ・スッチ演出のヴェルディ誕生200周年記念オペラ『ルイザ・ミラー』のミラー役をはじめ、トリノ王立劇場、ボローニャ市立劇場、コモ・ソチャーレ歌劇場など20か所以上のイタリアの劇場で『ドン・ジョヴァンニ』、『さまよえるオランダ人』、『道化師』などの作品に主要な役で出演。その他にコモ・ソチャーレ歌劇場開館200周年記念『カルミナ・ブラーナ』、コートジボワール独立60周年記念演奏、アルジェリア文化省招聘アルジェリア国立交響楽団定期演奏共演、在イタリア韓国大使館主催イタリア主要都市巡回演奏、パルマ・ヴェルディ・フェスティバル、韓国カンヌン市立合奏団カンタータ『ハンガン』など10か国200余回以上のコンサートでソリストとして演奏活動をしている。

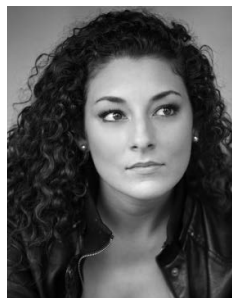


ミカエラ(ソプラノ)

アンドレア・キャロル

Andrea Carroll, Micaëla (soprano)

オペラニュース誌より「豊かで暗い低音域ときらめく高音域を誇る、よく響く力強いソプラノ」と讃えられたアンドレア・キャロルは、現在ウィーン国立歌劇場契約歌手として3期目を迎える。今シーズンはノルウェー・オペラ劇場『愛の妙薬』アディーナ、ダラス歌劇場『魔笛』パミーナ役・劇場デビューの他、『カルメン』ミカエラ役で東京フィルと初共演。ウィーン国立歌劇場では『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『ドン・パスカール』ノリーナ、『フィガロの結婚』スザンナ、また『ヘンゼルとグレーテル』グレーテル、『仮面舞踏会』オスカルでは役デビューを予定している。



先シーズン、ウィーン国立歌劇場では『ドン・パスカール』ノリーナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『愛の妙薬』アディーナ、ヨハネス・マリア・シュタウト作曲『Die Wieden (柳)』世界初演でキティ、『リゴレット』ジルダとして出演。ヒューストン・グランド・オペラでは『真珠採り』レイラとして出演した。

スニガ(バス) 伊藤 貴之

Takayuki Ito, Zuniga (bass)

名古屋芸術大学卒業、同大学大学院修了。NPO法人イエロー・エンジェルの奨学金を受け渡伊。

『仮面舞踏会』トム、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ランスへの旅』ドン・プロフォンド及びシドニー卿、『ウェルテル』大法官、『セビリアの理髪師』ドン・バジーリオ、『魔笛』ザラストロ等バスの主要な役で活躍を続けている。第41回イタリア声楽コンクール金賞受賞。

第6回G.ゼッカ国際声楽コンクール第2位。藤原歌劇団団員。



モラレス(バリトン) 青山 貴

Takashi Aoyama, Moralès (baritone)

東京藝術大学卒業。同大学院、新国立劇場オペラ研修所修了。ボローニャ、ミラノで研鑽を積む。国内では新国立劇場をはじめ日生劇場、びわ湖ホールなどで活躍。近年では2018年びわ湖ホール『ワルキューレ』、2019年『ジークフリート』ヴォータンで出演するほか、コンサートでもC.デュトワ、A.パッティストニなど著名な指揮者と東京フィルをはじめ国内外の主要なオーケストラと共演。オペラ夏の祭典2020『ニュルンベルクのマイスタージンガー』コートナーに出演予定。二期会会員。



ダンカイロ(バリトン) 上江 隼人

Hayato Kamie, Le Dancaire (baritone)

東京藝術大学卒業、同大学大学院修了。2005年に第34回(財)江副育英会オペラ奨学生として、2008年に明治安田クリオティブ財団の奨学生として渡伊。2006年ディマローの“Val di sole”イタリア音楽コンクール優勝。第24回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2011年ヴェルディ・フェスティバル『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵で国際的評価を得た。国内では、新国立劇場開場20周年記念特別公演『アイダ』アモナズロ、二期会『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、日生劇場『セビリアの理髪師』フィガロ等で活躍。2019年藤原歌劇団では『ラ・トラヴィアータ』ジェルモンで好評を得る。国内外で高い評価を得ているバリトンの逸材である。藤原歌劇団団員。



レメンダード(テノール) 清水 徹太郎

Tetsutaro Shimizu, Le Remendado (tenor)

京都市立芸術大学卒業、同大学院修了。第33回飯塚音楽コンクール第1位、文部科学大臣賞受賞。ドレスデンザクセン声楽アンサンブルジルヴェスターコンサート「メサイア」に招聘された他、室内楽・宗教曲への出演も多い。オペラでは『カルメン』ドン・ホセ、『夕鶴』与ひょう、『椿姫』アルフレード、『魔笛』タミーノ、びわ湖ホール主催『ラインの黄金』ローゲ、NHK音楽祭フェドセーエフ指揮『エフゲニー・オネーギン』トリケ、ニッセイ名作シリーズ『魔笛』僧侶、佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ『魔弾の射手』キリアン等がある。びわ湖ホール声楽アンサンブルソロ登録メンバー、『びわ湖ホール4大テノール』メンバー。



フラスキータ(ソプラノ) 伊藤 晴

Hare Ito, Frasquita (soprano)

武蔵野音楽大学大学院修了。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部第25期生修了。ミラノ、パリで研鑽、パリ地方音楽院修了。藤原歌劇団に『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『カルメン』ミカエラ、『愛の妙薬』アディーナ、2019年『ラ・トラヴィアータ』ヴィオレッタで高い評価を得た。今シーズンは『ラ・ボエーム』ミミで出演予定。他に日本オペラ協会『夕鶴』つう、小澤征爾音楽塾やA.パッティストニ指揮東京フィル「カルミナ・ブラーナ」等、多くのオペラやコンサートで活躍中。藤原歌劇団団員。



©Katsuhiko Kimura

メルセデス(メゾ・ソプラノ) 山下 牧子

Makiko Yamashita, Mercédès (mezzo soprano)

香川県出身。広島大学教育学部を経て、東京藝術大学大学院に学ぶ。第1回東京音楽コンクール声楽部門1位。新国立劇場『軍人たち』シャルロッテ、『ヴォツェック』マルグレート、『サロメ』ヘロディアス、日生劇場『メデア』(日本初演)クレオサ、東京二期会(アン・デア・ウィーン劇場との共同制作)『イドメネオ』イダマンテ等で絶賛を浴び、2016年東京二期会とライブツィヒ歌劇場との提携公演『トリスタンとイゾルデ』ブランゲネにも出演する。N響はじめオーケストラとのコンサート共演も多い。平成27年度よんでん芸術文化奨励賞受賞。オペラ夏の祭典2020『ニュルンベルクのマイスタージンガー』マغدレーネに出演予定。二期会会員。





©三枝近志

合唱 新国立劇場合唱団(合唱指揮：富平恭平)

New National Theatre Chorus (Kyohei Tomihira, chorumaster)

新国立劇場は、オペラ、バレエ、ダンス、演劇という現代舞台芸術のためのわが国唯一の国立劇場として、1997年10月に開場した。新国立劇場合唱団も年間を通じて行われる数多くのオペラ公演の核を担う合唱団として活動を開始。個々のメンバーは高水準の歌唱力と演技力を有しており、合唱団としての優れたアンサンブル能力と豊かな声量は、国内外の共演者およびメディアからも高い評価を得ている。



児童合唱 杉並児童合唱団(児童合唱指揮：津嶋麻子)

Suginami Junior Chorus (Asako Tsushima, children's chorusmaster)

昭和39年誕生。NHKの『歌のメリーゴーラウンド』(後に『歌はともだち』に改名)レギュラー出演。杉兎が常に目標としている「楽しい演奏」は、そのときの体験が原点となっている。楽しい演奏をモットーに【合唱ミュージカル】【ポピュラー曲】の開発にも力を注ぎ、数多くの作品を委嘱・発表。世界の民謡やピアノ曲・交響曲などを児童合唱曲に編曲。現在は3歳から大学生まで234名在籍。2019年創立55周年を迎え脈々と受け継がれてきた変わらぬ歌声とともに、児童合唱界のリーダー的存在として常に新しい演奏を目指し、様々なメディア・舞台へと活動の幅を広げている。

2/19

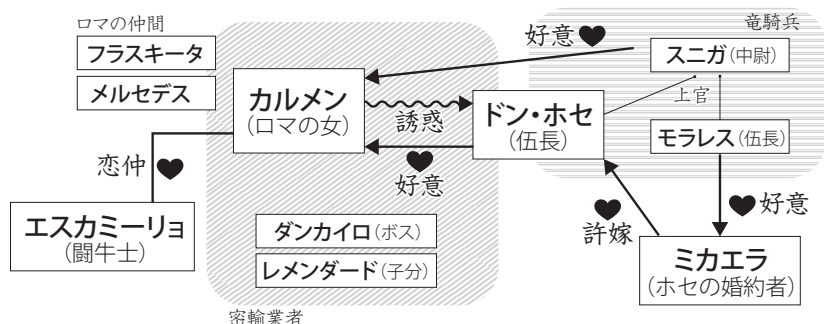
2/21

2/23

楽曲紹介

解説=堀内 修

ビゼー (1838 - 1875) 歌劇『カルメン』



カルメンの物語

セビリヤのタバコ工場で働いていたカルメンは、同僚とケンカして捕らえられる。だが見張り役の伍長ホセを巧みに誘惑して脱出し、自由を得た。営倉を出たホセを迎え、恋仲になったのはいいが、ホセが上官ともめごとを起こし、2人は一緒に密輸団に加わった。ホセの婚約者が取り戻しに来た時、気持ちが闘牛士エスカミーリョに移っていたカルメンは、引き留めたりしなかった。セビリヤの闘牛場の前で、よりを戻そうと迫るホセを拒んだカルメンは、刺殺された。

ドン・ホセの物語

竜騎兵の伍長ドン・ホセは任地のセビリヤで一人の女の見張りを命令された。ケンカ騒ぎで捕まったその女がカルメンだった。カルメンに誘惑され、ホセは縄をほどいて逃亡を許す。おかげで営倉に入ったが、出てきた後でカルメンと

深い仲になるのだった。密輸の仲間に加わったが、カルメンとはうまくいかない。婚約者ミカエラが山中にやってきたので故郷に戻ったものの、カルメンが忘れられない。セビリヤの闘牛場の前で待ち伏せ、復縁を迫ったが拒まれ、逆上して刺殺した。

『カルメン』の音楽と物語

〔前奏曲〕 簡潔だがオペラ全体を端的に表現している。活力にあふれる「闘牛士の歌」も、暗い死のテーマも、ここで聴こえる。

〔第1幕〕セビリヤのタバコ工場の前の広場 兵隊たちが広場にゆきかう人々を眺めているところに、婚約者のホセを訪ねてミカエラがやってきた。ホセに交替の後で会えると知ったミカエラは、出直すことにした。

兵士の交替が始まる。ホセも来た。子供たちが真似して行進している。

鐘が鳴って、タバコ工場から働く女たちがタバコを吸いながら出てきた。だがその中にカルメンはいない。

皆に注目されながらカルメンが現れ、私は自由が好きと歌う（ハバネラ）と、手にした花をそこにいたホセに投げる。

カルメンたちが工場に戻った後、ミカエラがやってきてホセと再会する。「母さんの話を聞かせてくれ」とホセが頼み、2人は親密に語り合う。

ミカエラが戻り、ホセがさっきの花を捨てようとした時騒動が起った。工場での争いの張本人がカルメンだった。カルメンは捕まり、ホセが見張り役を命じられる。

見張り役のホセを、カルメンは「リーリヤス・パステアの酒場に行こう」と誘いかける（セギディーリヤ）。ホセはとうとう縄をほどき、カルメンの逃走を助けてしまった。

〔第2幕〕セビリヤの城壁近くのリーリヤス・パステアの酒場 酒場にカルメンや仲間の男女が集まって騒いでいる（ロマの歌）。

やってきたのは花形闘牛士のエスカミーリョだ。乞われるまま「皆さんに乾杯！」と歌う（闘牛士の歌）。闘牛士が目付けたのはカルメンだ。

皆が去った後、ダンカイロとレメンダードは女たちを密輸の仕事に誘う。さらに

カルメンが一人になったところへ、歌いながら(アルカラの竜騎兵) 営倉を出たホセがやってくる。カルメンは歓待するが、帰営のラッパで気もそぞろになったホセに怒り出す。ホセは大事に持っていた花を取り出し「おまえが投げたこの花は」と歌って(花の歌)、必死にすぎる。

でも戻らなければ、とホセが決めた時、ホセの上官スニガがやってきた。カルメンをめぐるスニガと争ったホセは、結局密輸の仲間に加わるはめになった。

【第3幕第1場】山の中 密輸業者たちが暗い山中で一休みしている。カルメンと仲間のメルセデス、フラスキータの3人が「混ぜて、切って」とカード占いをしているが、カルメンに出るのは暗い死の札ばかり。

一方ミカエラがホセを連れ戻しに、一人で暗い山中にやってきた。「何もこわくない」とアリアを歌って自分を勇気づける。

ミカエラがホセを見つけた時、もう一人の男が現れる。カルメンを訪ねてきたエスカミーリョだ。ホセと争いになるが、一同に止められ、エスカミーリョは皆を闘牛に招き、去っていく。そこでミカエラが見つかった。懇願にもかかわらず居残ろうとしたホセだったが、母が病気と聞き、ミカエラと去った。

【第3幕第2場】セビリャの闘牛場の前 大勢の人々でにぎわっている広場で、行進曲が始まり、闘牛士たちが入場していく。歓声とお祭り気分は、カルメンを連れたエスカミーリョの登場で頂点に達する。フラスキータとメルセデスが、ホセが来ていると、カルメンに教えるが、恐れる様子はない。

人々が入場した後、ホセがカルメンに近づいた。死を告げる管弦楽は、カルメンがホセにもらった指輪を投げたところで暗く響く。あくまで拒むカルメンを、ホセは刺す。俺が殺した! の叫びで全曲が終わる。

『カルメン』の誕生と現在

パリのオペラ・コミック座から新作を依頼されたジョルジュ・ビゼー(1838-1875)は、プロスペル・メリメ(1803-1870)が1845年に発表した小説『カルメン』を選ぶ。台本を書いたのは親しい友人のアレヴィとメイヤックだった。

オペラ・コミック座は市民のための「上品な」劇場だった。原作をそのままオペ

ラ化するのはまずい。カルメンは悪女から働く女になり、無法者は削除されと変更が加えられた。これが『カルメン』をフランス・オペラの傑作どころか、時を超えたオペラの名作にするのに役立つとは、作者たちも想像できなかったのではないだろうか。

1875年3月3日、『カルメン』はオペラ・コミック座で初演された。和らげられたとはいえ、『カルメン』は問題作だった。主人公はケンカも誘惑も逃亡もするロマの女で、舞台を密輸入たちが歩き回り、殺人事件で終わる。初演は成功しなかった。『カルメン』の進撃はパリでなくウィーンから始まる。ウィーンでの上演に際し、歌とせりふから成るオペラ・コミックから、歌をレチタティーヴォでつなぐグランド・オペラに変えることになったが、その作業の途中でビゼーは急死してしまう。30代の若い死だった。仕事を引き継いだギローがグランド・オペラ版を完成させ、『カルメン』は1875年の5月にウィーン宮廷歌劇場で上演された。これが成功し、『カルメン』は現在まで続く人気オペラになっていった。今日『カルメン』はオペラ・コミック版とグランド・オペラ版の両方で上演される。

時とともに『カルメン』は変わる。男をたぶらかす悪女の典型だったカルメンは、自由を求める女として肯定的に描かれるようになる。アリアは第3幕でミカエラが歌う一つだけで、基本は歌いかける相手が舞台にいる歌、という構成は、現代のドラマ性を重視する上演にぴったり。19世紀も21世紀も変わらないのは気持ちを動かす歌と音楽だ。ハバネラ、セギディーリヤなど舞曲を元にした音楽で、『カルメン』は聴く者をかきたてる。

【原作】 プロスペル・メリメ『カルメン』 【台本】 ルドヴィク・アレヴィ、アンリ・メイヤック
 【作曲年代】 1872～1874年 【初演】 1875年3月3日 オペラ・コミック座にて
 【楽器編成】 フルート2（1番、2番ともピッコロ持ち替え）、オーボエ2（2番はイングリッシュ・ホルン持ち替え）、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、ホルネット2、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器（カスタネット、タンブリン、小太鼓、太太鼓、トライアングル、シンバル）、ハーブ、弦楽5部

ほりうち・おさむ（音楽評論家）／東京生まれ。1970年代からオペラとクラシック音楽に関する執筆活動を行い、雑誌や新聞に寄稿するほか、テレビやFM放送にも出演してきた。著書に『オペラ入門』（講談社）、『モーツァルト・オペラのすべて』『ワーグナーのすべて』（平凡社）などがある。

作品の背景

セビリヤのカルメン
——太陽、ロマ、闘牛士そして自由

文＝澤田 肇

2/19

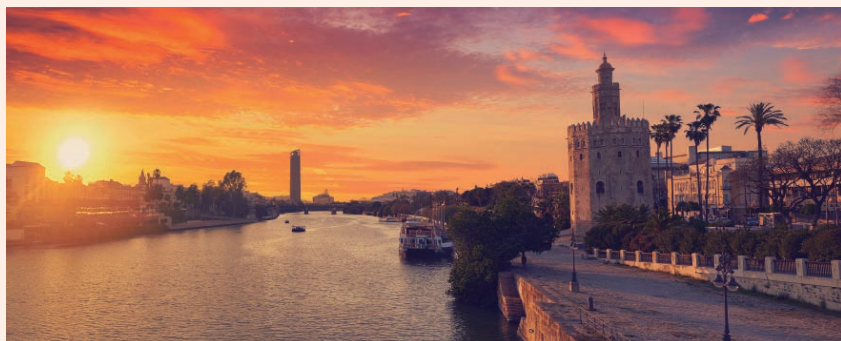
2/21

2/23

太陽の申し子カルメン(第1幕)

スペイン南部のアンダルシア地方は、地中海や大西洋に面した地帯では海岸沿いの良港に、山脈に区切られた内部では河川の要所に都市が発達した。この地方の中心都市セビリヤは、8世紀から13世紀までイスラム王国が栄えた町である。15世紀末のコロンブスによる新大陸発見後はアメリカとの交易の拠点となった。18世紀後半から繁栄したタバコ産業の中心工場は今ではセビリヤ大学のキャンパスになっている。

時代が変わっても、温暖で日照時間の長いこの町では、夕刻より大勢の人々が街路や広場に繰り出し、そぞろ歩きを楽しむ。19世紀にはあらゆる種類の物売りが呼び声を出し、子供たちは徒党を組んで遊び回る姿が常に目に入る。そうした群衆がそのまま舞台の上に登場するのがビゼーの歌劇であり、中でも際立つ存在が輝くように美しいロマのカルメンである。



『カルメン』の舞台セビリヤの夕陽



ロマとフラメンコ(第2幕)

15世紀のヨーロッパ各地に、肌の黒く、髪の手短、異形の集団が出現したが、それはどこからやってきたのか不明な民族であった。放浪の民＝犯罪者集団と見なされがちだったロマは各国で弾圧を受けたが、比較的寛容な国(ルーマニア、ハンガリー、スペインなど)には多数のロマが定着した。アンダルシア地方はスペインでもっともロマが集中している地域である。家畜の飼育や羊の毛刈りなどの季節労働が伝統的な収入源だが、19世紀の産業革命の時代にはスペイン人の下層民に混じって工場で働くロマも現れる。

フラメンコと言えばスペインの情熱的な踊りと誰もが思い浮かべるが、これはロマの音楽とアンダルシアの民謡が融合して誕生したものである。19世紀に歌とギターと踊りからなるフラメンコの様式が確立し、それを見られるフラメンコ・ライブ酒場が誕生したのはセビリヤだった。『カルメン』第2幕冒頭のリーリヤス・パステアの酒場でもロマ女たちの踊りが見られる。

密輸団と闘牛士(第3幕)

19世紀末までヨーロッパの大部分の都市は外敵に備えて城壁に囲まれていた。町の門では入市税官吏が近郊の農産物から遠方の交易品まで持ち運ばれるものから税金を徴収する。申告を逃れて物資を町に運べばいい稼ぎになるので、プロの集団から堅気の兼業まで大小の密輸団が横行することになる。それは民衆にとっては立派な職業の一つなのだ。歌劇第3幕の冒頭では、密輸団の首領ダンカイロが城壁の割れ目から品物を運び込む算段をする*。

*編注：今回の上演ではこのダイアローグは省略される。

2/19

2/21

2/23



セビリアのマエストランサ闘牛場

19世紀のセビリアでは、男女、貴賤、年齢を問わずに闘牛は熱狂的に愛好され、開催前夜から庶民は街路に出て闘牛士と牛たちが通るのを見るのに良い場所取りをした。闘牛士たちは英雄だが、中でも闘いの最後に剣を手にして牛にとどめを刺すマタドールが偶像視されていた。歌劇第3幕第2場の冒頭での闘牛士たちの行進の場面では、エスパダという同じ意味の別の単語で呼ばれるエスカミーリョが群衆から喝采を受けている。

自由と自立を求めたカルメン

『カルメン』の中で示されるセビリアの人間たちは、われわれが持つイメージに合うものだ。だがロマ社会の掟では、若い娘が集団を離れて一人で働くことも、ロマ以外の男と結婚することも許されない。一般のスペイン人社会においても、指輪をもらった後は、妻は夫に服従し、家庭を守ることが義務とされる。カルメンは社会にとって二重の越境者だったのだ。

今日、カルメンはオペラのもっとも有名なヒロインとなっている。19世紀には現実に存在することを許されなかった、自分の好きなように恋愛をするカルメンは、望ましい男女のあり方を鏡のように照らしてきてくれたのかもしれない。自由と自立を求める、つまりは人間として当たり前の生き方をする勇氣を見せたのがカルメンなのである。

さわだ・はじめ／上智大学名誉教授。朝日カルチャーセンター講師。1952年生まれ。主な著書に、『フランス・オペラの魅惑』、『パリという首都風景の誕生』、『舞台芸術の世界を学ぶ』、『《悪魔のロベール》とパリ・オペラ座』など。

マエストロ チョン・ミョンフン 2020シーズンの出演情報



©上野隆文

7月定期演奏会

指揮：チョン・ミョンフン
ヴァイオリン：服部百音*
ベートーヴェン／ヴァイオリン協奏曲*
ベートーヴェン／交響曲第3番『英雄』

10月定期演奏会

指揮：チョン・ミョンフン
アルト：中島郁子
女声合唱：新国立劇場合唱団
児童合唱：東京少年少女合唱隊
マーラー／交響曲第3番

2001年、東京フィルのスペシャル・アーティスティック・アドバイザーに就任したチョン・ミョンフンが、「もっと音楽を掘り起こそう」という願いを込めて、オーケストラにスコップを贈ったことがあった。以来20年、名誉音楽監督と肩書は変わっても、いまなお東京フィルと密接な関係を保っているマエストロのタクトのもと、両者は音楽をより深く「掘り起こそう」とし続けている。



「内面の音を掘り起こす」という言葉とともに、マエストロが16年前に東京フィルに贈ったスコップ

7月・10月の定期演奏会では、そんな両者の蜜月ぶりを間近で体験できる機会が訪れよう。ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン生誕250年を祝う7月定期では、交響曲・協奏曲の分野で時代を切り拓こうとした作曲家の挑戦心を感じることができるはずである。19世紀初頭、50分という破格の長さを誇った「交響曲第3番」の精神は、19世紀末に至って、グスタフ・マーラーによって、その倍となる100分の演奏時間を要する「交響曲第3番」に受け継がれた。交響詩、歌曲、そして交響曲の世界を自在に飛び回る作曲家によって編まれた、巨大なハイブリッド作品。マエストロと東京フィルの面々は、あらゆる箇所を新たに「掘り起こし」、それまでに見たこともない新しい世界へと聴き手を誘ってくれることだろう。（広瀬大介）

発売日など詳細は、44ページをご覧ください。

オーケストラの日

*Message on “Carmen”
in concert style
from Maestro
Myung-Whun Chung*



©Takafumi Ueno

19
Feb

21
Feb

23
Feb

Carmen is such a passionate opera. So it requires lots of passion in performance. Just because it is so well known, it can sometimes be considered lightly. But after you read the score, you can tell that Bizet put so much of his heart in it. I am amazed by his imagination.

As we will perform it in concert style, we will not offer visual pleasure, but instead you can really concentrate on the music. You can imagine the scenes closing your eyes and open your ears to the music. When we perform operas in full production, we sometimes have to compromise musical details due to physical restrictions such as the dramatic movements and action that must be performed in addition to the singing. This is why I believe it a great idea to perform very well known operas sometimes in concert style.

(From an interview by Mr. Haruo Yamada in 2019)

Note: The dialogues for this opera production were partially employed according to the conductor's wish.

Program

The 131st Tokyo Opera City Subscription Concert
Wed. February 19, 2020, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall

The 932nd Suntory Subscription Concert
Fri. February 21, 2020, 19:00 at Suntory Hall

The 933rd Orchard Hall Subscription Concert
Sun/Holiday, February 23, 2020, 15:00 at **Bunkamura Orchard Hall**

Myung-Whun Chung, conductor

Marina Comparato...Carmen (mezzo soprano)

Alfred Kim.....Don José (tenor)

Byunghyuk Choi.....Escamillo (baritone)

Andrea Carroll.....Micaëla (soprano)

Takayuki Ito.....Zuniga (bass)

Takashi Aoyama.....Moralès (baritone)

Hayato Kamie.....Le Dancaïre (baritone)

Tetsutaro Shimizu...Le Remendado (tenor)

Hare Ito.....Frasquita (soprano)

Maiko Yamashita... Mercédès (mezzo soprano)

New National Theatre Chorus

(Kyohei Tomihira, chorusmaster)

Suginami Junior Chorus

(Asako Tsushima, children's chorusmaster)

Akihiro Miura, concertmaster

Noriko Ishikawa, lighting designer

A. S. G., lighting operator

Keiko Masuda, subtitles

(Hideki Wada, Original translation)

Zimaku Plus, subtitles operator

Georges Bizet: Opera "Carmen"

(concert-style opera with Japanese supertitles)

Prelude (ca. 4 min)

ACT I A square in Seville (ca. 50 min)

Intermezzo (ca. 2 min)

ACT II Lillas Pastia's tavern (ca. 40 min)

— intermission (ca. 20min) —

Prelude (ca. 3 min)

ACT III Scene I In the mountains (ca. 40 min)

Intermezzo (ca. 2 min)

Scene II Outside the bullring (ca. 20 min)

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan | Japan Arts Council

The Kao Foundation for Arts and Sciences (Feb 21)

The Mitsubishi UFJ Trust Foundation for the Arts (Feb 21)

Rohm Music Foundation (Feb 21)

Supported by Korean Cultural Center, Korean Embassy in Japan

Sous le parrainage de: Ambassade de France / Institut français du Japon

In Association with **Bunkamura** (Feb 23)



Concert style opera conducted by
Myung-Whun Chung

The Story of "Carmen"

Synopsis

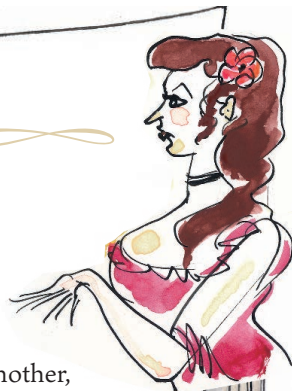
In the 19th century, in Seville,
Flirtatious gypsy Carmen lures
soldier Don José into her affections.

His fiancé Micaëla gave him a letter from his mother,
but he abandons his mission and joins a group of smugglers.

Carmen's attention is drawn
more and more toward a bull-fighter Escamillo.

On the lively streets of Seville just before
the start of the bull fight,
a parade leads Escamillo into the arena after
he and Carmen have professed their love for each other.

Outside of the bullring,
Carmen and José's eventual fatal confrontation is interrupted
with interjections of loud cries from inside the arena cheering
Escamillo's supposed triumph there.



19
Feb

21
Feb

23
Feb

Chia / 4.

Artists Profile



©vivace

Myung-Whun Chung, conductor

The Honorary Music Director of the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Seoul, Myung-Whun Chung won the silver medal at the Tchaikovsky International Piano Competition in 1974. After completing conducting studies at the Juilliard School, he served as assistant and subsequently associate conductor to Carlo Maria Giulini at the Los Angeles Philharmonic. Since his appointment as Music Director of the Paris Opera (L'Opéra Bastille) in 1989, Maestro Chung has conducted many prominent orchestras, including the Vienna Philharmonic, the Berlin Philharmonic, and la Filarmonica della Scala. He served as the Music Director of l'Orchestre Philharmonique de Radio France (2000-2015), the Seoul Philharmonic Orchestra (2006-2015) and the Asia Philharmonic Orchestra, which he founded in 1997, Principal Guest Conductor of the Staatskapelle Dresden from 2015.

For the TPO, Maestro Chung was Special Artistic Advisor (2001-2010), its Honorary Conductor Laureate (2010-2016). Starting September 2016, he was appointed as Honorary Music Director. He is active in education for the younger generations and in promotion of peace especially in Asia through a variety of musical activities and serving as UNICEF Ambassador.

Marina Comparato,

Carmen (mezzo soprano)

Born in Perugia. She studied in Florence. She made her debut in 1996 as Rosina in *Il barbiere di Siviglia*, in London.

In 1996 she won the 1st prize at the "V. Bucchi" Competition of Rome, on 20th century music. In 1997 she won the 1st prize at Spoleto competition where she debuted as Sesto in *La Clemenza di Tito*.

Since then she has been invited to major theatres in Italy and throughout the world as: *Maggio Musicale Fiorentino, San Carlo Naples, Teatro Massimo Palermo, Opera Rome, Teatro Regio Turin, La Fenice Venice, La Scala Milan; Opéra National de Paris, Theatre du Chatelet, La Monnaie Bruxelles, Nederlandse Opera Amsterdam, Teatro Real Madrid, Teatre Liceu Barcelona, Teatro Colon Buenos Aires, Glyndebourne Festival, Salzburg Festival.*



©Giacomo Orland

19
Feb

21
Feb

23
Feb

Alfred Kim, Don José (tenor)

In 1996, Alfred Kim was cast in a series of lead roles, starring in the operetta *Die Fledermaus*, which was the first production by the Seoul Arts Center, and *Les Contes d'Hoffmann* by the Seoul Metropolitan Opera. Under the limelight and praise that "a star tenor is born," Kim debuted with astounding success.

In 1998, at the ARD Music Competition in Munich, Kim won the second prize in the voice category with no first prize winners and a special prize. In 2002, Kim's vocal prowess was further acknowledged when he won the special prize at the Plácido Domingo International Voice Competition in Paris. Since then, Kim has been active as a world-class tenor, invited to take on lead opera roles in the world's most prestigious stages: the London Royal Opera Covent Garden, Wiener Staatsoper, the Paris National Opera Bastille, the Teatro Real Madrid, the Barcellona Liceu Opera, the Berlin Staatsoper, and the Metropolitan Opera New York.



Byunghyuk Choi, Escamillo (baritone)

Including the role as Miller in *Luisa Miller*, an opera celebrating Verdi's bicentenary, conducted by Donato Renzetti and directed by Leo Nucci, Choi performed at more than 20 major Italian theaters, including the Teatro Reggio di Torino, the Teatro Comunale di Bologna, the Teatro Sociale di Como, in more than 10 operas such as *Don Giovanni*, *L'Olandese Volante*, *Pagliacci*, taking the stage more than 50 times in lead roles.



Meanwhile, Choi has been continuing to stage solo performances in more than 200 concerts in 10 countries, including the *Carmina Burana*, a bicentenary performance of Teatro Sociale di Como; the performance celebrating the 60th anniversary of the independence of Côte d'Ivoire; collaboration with the Algerian National Symphony Orchestra at the invitation of the Algerian Ministry of Culture; tour of major Italian cities, hosted by the South Korean embassy in Italy; the Verdi Festival in Parma; and the cantata *Hangang* with the Gangneung Civic Chorale.

Andrea Carroll, Micaëla (soprano)

Hailed by Opera News for her "strong, vibrant soprano" with a "rich, dark low register and gleaming top," soprano Andrea Carroll is currently an ensemble member of the Vienna State Opera. This season, Ms. Carroll debuts with Den Norske Opera in Oslo as Adina in *L'elisir d'amore*, makes her house and role debut at Dallas Opera as Pamina in *Die Zauberflöte*, and debuts with the Tokyo Philharmonic as Micaëla in *Carmen*. She also returns to the Vienna State Opera as Zerlina in *Don Giovanni*, Norina in *Don Pasquale*, Susanna in *Le nozze di Figaro*, and makes her role debuts as Gretel in *Hänsel und Gretel* and Oscar in *Un ballo in Maschera*.



Last season, she performed Norina in *Don Pasquale*, Musetta in *La Bohème*, Adina in *L'elisir d'amore*, Kitty in the world premiere of *Die Weiden* by Johannes Maria Staud, and Gilda in *Rigoletto* at the Vienna State Opera. She also returned to Houston Grand Opera as Leïla in *Les pêcheurs de perles*.

Takayuki Ito, Zuniga (bass)

Graduated from Nagoya University of Arts and completed its graduate school. Continued his studies in Italy with a scholarship from NPO Yellow Angel. Has sung major bass roles such as Tom in "Un Ballo in Maschera," Colline in "La Bohème," Don Profondo and Lord Sidney in "The Journey to Reims," le Bailli in "Werther," Don Basilio in "Barber of Seville," Salastro in "The Magic Flute" among many others. Received Gold Award in the 41st Italian Vocal Concorso and 2nd Award in the 6th G. Zecca International Vocal Competition. Member of the Fujiwara Opera Company.



Takashi Aoyama, Moralès (baritone)

He has graduated from Tokyo University of the Arts and its graduate school, specializing in opera and completed the Nikikai Opera studio with the highest honor and the Shizuko Kawasaki Award. He also completed the 4th period of the New National Theatre Opera Studio. He studied in Bologna as an intern artist selected by the Cultural Agency. He won the 1st prize of the 6th Carlos Gomes International Competition. His appearances in Japan include Renato in Un ballo in Maschera, the title role in Nabucco, among others. His repertoire includes Beethoven's 9th symphony, Bach's St. Mathew Passion and Carmina Burana. He is a member of Nikikai.

19
Feb21
Feb23
Feb

Hayato Kamie, Le Dancaïre (baritone)

Hayato Kamie graduated from Tokyo University of the arts and its graduate school at the top of the class. He studied in Milan. He won the 1st prize of the Dimaro International Competition "Val di sole" and he was a Finalist of Busseto International Competition. He has performed in the role of Rigoletto in Teatro Regio di Parma, Tonio (Pagliacci) and Stankar (Stiffelio) in Teatro Massimo Bellini, Il Conte di Luna (Il trovatore) in Teatro Giuseppe Verdi, Busseto among others. He is also active in concert appearances which include Messiah, Mozart's Requiem, Beethoven's Symphony No. 9. He is a member of Fujiwara Opera.



Tetsutaro Shimizu, Le Remendado (tenor)

Tenor Tetsutaro Shimizu graduated and holds a Master's degree from Kyoto City University of Arts. The winner of 33rd Iizuka Music Competition, and was awarded Culture, Sports, Science and Technology Minister's Award. Mr. Shimizu has appeared in many works with Dresden-Sachsen Vocal Ensemble, such as Messiah, St. Matthew Passion (Evangelist), Beethoven's Ninth Symphony and Carmina Burana. In the field of opera, he played main roles in Carmen (Don Jose), Yuzuru (Yohyo), La Traviata (Alfredo) and Die Zauberflöte (Tamino). Mr. Shimizu has also appeared as Loge in Biwako-Hall's production of Das Rheingold, as Triquet in NHK Music Festival's Evgeny Onegin conducted by Vladimir Fedoseyev, as the priest in Nissei's Die Zauberflöte, and as Kilian in Sado Yutaka Produce Opera's Der Freischütz.



Hare Ito, Frasquita (soprano)

She finished the master's course of Musashino College of Music. She then completed Class 25 of the Japan Opera Foundation's Opera Singer Development Course. Continued her studies in Milan and Paris. Completed the Conservatoire à rayonnement régional de Paris in 2013. Made her professional debut singing Musetta in "La Bohème," followed by Michaela in "Carmen." Her title role in "La Traviata" received high acclaim in 2019. Her Doralice in "The Triumph of Honor" presented by the Belcanto Opera Festival in Japan 2019 was exceptionally remarkable. A member of the Fujiwara Opera Company.



©Katsuhiko Kimura

Makiko Yamashita, Mercédès (mezzo soprano)

Born in Kagawa-prefecture in Japan, mezzo-soprano Makiko Yamashita completed her Master's degree at Tokyo University of the Arts. She performed important roles in various operas at the New National Theatre, Tokyo and the Tokyo Nikikai Opera Theatre. Her past opera-performances in Japan include the title role in Carmen, Dorabella in Così fan tutte, Idamante in Idomeneo and others. In September, 2016, she'll sing Brangene in Tristan and Isolde at Tokyo Nikikai Opera Theatre. She has also been a popular performer on concert stages. She is a member of Nikikai.

19
Feb21
Feb23
Feb



©三枝近志

New National Theatre Chorus

(Kyohei Tomihira, chorusmaster)

New National Theatre, Tokyo, has opened in October 1997 as the only national theatre for the modern performing arts of Opera, Ballet, Contemporary Dance and Play. Meanwhile, New National Theatre Chorus has started its career and plays a central role in many Opera performances all through the seasons. Their ensemble ability and rich voices achieved acclaim from costarred singers, conductors, directors, stage staffs as well as domestic and foreign media.

19
Feb21
Feb23
Feb

Suginami Junior Chorus

(Asako Tsushima, children's chorusmaster)

Founded in 1964, Suginami Junior Chorus (SJC) regularly appeared in NHK's TV Show, "Merry-Go-Round of Songs" (later renamed "Songs Are Your Friends"). Based on this experience, SJC made it a primary goal to have "joyful performances." Devoting themselves to developing "chorus musicals" and "popular songs" with this goal in mind, they have been commissioning and presenting many works, and arranging world folk songs, piano works and symphonies into children's chorus pieces. SJC currently comprises 234 members ranging from 3 years old to college students. Celebrating their 55th anniversary in 2019, SJC has a long history as a leader in the children's chorus world, always aspiring to new great performances while preserving the vocal tradition and practice that brought them to this level, and expanding to different media and stages.

Program Notes

by April L. Racana

Georges Bizet (1838-1875)

Opera "Carmen" (concert-style opera with Japanese supertitles)

The opera *Carmen* was to be composer Georges Bizet's final work in a life that was cut short at a very young age. It has become one of the world's most well loved operas in spite of its rough start, where in Paris at the Opéra-Comique its premiere was postponed by a number of delays, and the first performances received much criticism from both the audiences and theatre critics of the time.

Following the Franco-Prussian War in 1870-1871, Bizet among other French artists began anew, composing music for their compatriots. He was commissioned to collaborate with Alphonse Daudet, on his play *L'arlésienne* (The Girl from Arles). Using a small chamber orchestra Bizet created the incidental music for the play, and the two artists created a production both were satisfied with, even though it too was not received well by the public.

In spite of this poor reception, Bizet (with the encouragement of a few local musicians, including Massenet), arranged four sections of the original music entitling it the First Suite from *L'arlésienne*, which was scored for a larger orchestra and performed in concert in November of 1872 with great success. It was at about this time that he began work on *Carmen*. Later a Second Suite from *L'arlésienne* was arranged in 1879, after Bizet's death, by his friend and colleague Ernest Guiraud, who had also collaborated with the composer on *Carmen*.

The directors at the Opéra-Comique, du Locle and de Leuven, had proposed that Bizet collaborate with librettists Meilhac and Ludovic Halévy. It was apparently Bizet's idea to create a production based on Mérimée's novel, "Carmen", written in 1845. However, Bizet apparently

19
Feb21
Feb23
Feb

took some liberties with the original plot and made a number of changes to the libretto. There were serious concerns about the risqué themes and violence in the storyline for the more conservative audiences that generally attended the theatre, but after numerous delays, finally in December of 1873, soprano Marié Celestine Galli-Marié, was cast in the title role. And although rehearsals continued to be delayed (due to complaints from the musicians as well as chorus members regarding the demands being placed on them), both lead singers for the roles of Carmen and Don José, supported the composer in his efforts to stage the work as written, threatening to resign if changes were made.

On March 3rd, 1875 the work was premiered with seemingly good reviews following Act I, but as the production went on, the audience's reaction was less warm: "The first night audience, which expected a charming operetta, was stunned instead by one of the greatest tragic operas of the nineteenth century. That audience was understandably cool and some of the critics were scandalized by what they considered to be the immorality of the plot. The story of the irresistibly fascinating gypsy girl who deserts her soldier-lover for a strutting bull fighter and is murdered in the final scene by the jealous soldier was indeed something new to the world of opera." [NY Phil Archives 1964]

Bizet commented: "I sense defeat, I foresee a definite and hopeless flop. This time I am really sunk. ...All these bourgeois have not understood a wretched word of the work I have written for them." The press was even less generous the next day stating that *Carmen* was "obscene" and the music was "obscure and devoid of colour," "unoriginal and undistinguished in melody."

In spite of these dismal reviews, the production continued to run for forty-eight performances, seemingly attracting audiences for sheer shock value. Bizet's death on June 3rd of the same year also increased interest in the work before it closed there. But it wasn't until *Carmen* was performed in Vienna in October that the work would begin its worldwide tour of acclaim: "...the new realism took hold and the dashing brilliance of Bizet's orchestra, the emotional intensity of his melody, and the subtly Spanish character of his rhythms did the rest. *Carmen* triumphed... as it has triumphed ever since." [NY Phil Archives 1964].

The opera (originally composed in four acts), is in the *opera-comique* style, which features both spoken dialogue and sung sections, however outside of Paris it is typically presented with recitatives, scored by Bizet's friend Ernest Guiraud (who had also arranged the Second Suite from *L'arlésienne*). And even though the composer himself had never been to Spain, after researching the various musical forms and idiosyncratic sounds of the region in depth, he incorporated many of these elements, including those of popular Spanish and Latin American songs of the time. The TPO will be performing from the Alkor Edition for this concert series, with limited spoken dialogue, and presented as an extended three-act version, with Act 3 divided into two parts.

The Prelude of Act 1 sets the scene with a festive march and introduces the audience to the 'toreador' theme as well as the contrasting 'fate' theme in a minor key that will be heard throughout the work. A children's chorus displays a playful mockery of a military march before the 'cigarette' girls and their suitors join in with swirling melodies intended to represent the smoke rising in the air around them. Carmen joins in, but in spite of the demands from the suitors, she puts them off after her signature flirtatious gestures. The "Habanera" is considered by many to be the most famous aria sung in the opera, presented by Carmen in Act 1 as she seductively lures Don José into her affections. The melody was apparently taken from a popular tune composed by Sebastián Yradier, which had become so popular it appears it may have been initially mistaken for a traditional folk song.

Also in Act 1 we hear a duet between Mikaela and Don José, where he is given a letter from his mother which has him reminiscing and pledging to make her proud. The “Seguedilla” is a Spanish song and dance that is heard near the end of Act 1 which Carmen uses to seduce Don José into releasing her from prison. In the finale of the first act, Carmen escapes after devising a scheme to push Don José aside as a distraction, which has the crowd cheering for her.

Act 2 features a rustic folk tune on the bassoon to set the change of scene. Carmen then sings another aria, this time with bohemian overtones and including a gypsy dance with her compatriots Frasquita and Mercedes. “Les Toreadors” is one of the most recognizable pieces in the entire opera in a fast march style, presented next in Act 2. It depicts the energetic procession of matadors on the way to the bullring in Seville, as well as signals the entrance of the toreador, portrayed by Escamillo who also sings the ‘Toreador Song’, describing the many adventures of a bull-fighter in the bullring. In a quintet setting, the smuggler characters plan their next escapades before Don José approaches the gypsy camp singing the tune from the opening of the act.

In the finale of Act 2, there are five pieces presented without break to close this portion of the opera. Carmen continues to capture Don José’s attention with seemingly simple, (yet flirtatious) “tra la la’s” before the trumpets announce retreat as he prepares to leave. Don José then takes his turn reminiscing about the feelings stirred when Carmen first tossed a flower his way, and proclaims his love for her. Carmen then attempts to lure Don José to abandon his mission and follow her into the mountains, without success. The Lieutenant arrives in search of Don José where a fight ensues, and Carmen even playfully tries to convince him to join them as well. The act closes with a glorious tribute to liberty in spite of the fact that Don José no longer has his own liberty.

19
Feb21
Feb23
Feb

The prelude to Act 3 is believed to have been originally intended for the composer's score for the play *L'arlésienne* and features flute and harp. Next, a mysterious march accompanies the smugglers as they enter. Carmen, Mercedes and Frasquita follow, reading their fortunes in a 'card scene trio', which turns up good fortunes for the two, but foretells of Carmen's fate when she repeatedly turns over symbols of death. As the gypsies depart they sing taunts, before Mikaela sings a beautiful, and yet mournful aria lamenting what has become of Don José. The increasing tensions between the two lead characters, Carmen and José, can be heard in the music throughout this act, as Carmen's attention is drawn more and more toward Escamillo. Before Don José's reluctant departure, Mikaela reveals that his mother is dying.

The entr'acte to the final section highlights the lively rhythms of a traditional Spanish dance featuring castanets and tambourines, and setting the scene on the lively streets of Seville just before the start of the bull fight. The winds play a melody that is based on an Andalusian folk dance while the strings add a pizzicato accompaniment below before joining in with the catchy tune. A chorus joins in to celebrate the festivities, before a parade leads Escamillo into the arena after he and Carmen have professed their love for each other. Mercedes and Frasquita attempt to warn Carmen of her impending doom before reluctantly leaving her to her fate.

In the final scene of the opera, Carmen and José are alone on the stage which is set outside of the bullring. Their eventual fatal confrontation is interrupted with interjections of loud cries from inside the arena cheering Escamillo's supposed triumph there — a metaphoric mirror. Many scholars consider this scene to be 'one of opera's most remarkable and brilliantly constructed scenes'.

Perhaps in fitting tribute, as had been done with Bizet's incidental music to *L'arlésienne*, two orchestral suites were arranged, posthumously. As musicologist Hugh MacDonald states, this was not to be the last tribute: "[*Carmen*] has been adapted in a bewildering variety of different screen and stage presentations and its music has been arranged for every imaginable ensemble." (Grove) A fitting tribute indeed to a composer whose life was cut short in time but extended as his music lives on.

Original work: Prosper Mérimée "Carmen" **Libretto:** Ludovic Halévy, Henri Meilhac
Work composed: 1872-1874 **World premiere:** 3rd, Mar. 1875, at the Opéra-Comique in Paris

Instrumentation: 2 flutes (doubling on piccolo), 2 oboes (2nd doubling on English horn), 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 cornets, 3 trombones, timpani, percussion (castanets, tambourine, snare drum, bass drum, triangle, cymbals), harp, strings

19
Feb21
Feb23
Feb

April L. Racana / As a Music Specialist, Ms. Racana completed her undergraduate studies at the University of Illinois, Champaign-Urbana (BS/Piano Pedagogy) and her graduate studies at San Francisco State University (MA/Music). In addition, she was accepted as part of a post-graduate fellowship at Northwestern University's Bienen School of Music, as well as for the Japan Studies Program at International Christian University. Having been a Music Specialist teaching both in California for nearly a decade, and at Nishimachi International School where she taught for more than 25 years, she feels she has learned as much from her many students as she has taught them over more than three decades, and especially appreciates the opportunity to share her musical insights to an even wider community, as program annotator for the TPO.

Next Subscription Concerts

March

The 934th **Fri Mar 13, 19:00 start**
at Suntory Hall (Main Hall)

The 935th **Sun Mar 15, 15:00 start**
at Bunkamura Orchard Hall

The 132nd **Mon Mar 16, 19:00 start**
at Tokyo Opera City Concert Hall

Conductor: Mikhail Pletnev

Smetana: "Ma Vlast"

Single tickets
available on the web

April

The 936th **Sun Apr 12, 15:00 start**
at Bunkamura Orchard Hall

The 133rd **Tue Apr 14, 19:00 start**
at Tokyo Opera City Concert Hall

The 937th **Wed Apr 15, 19:00 start**
at Suntory Hall (Main Hall)

Conductor: Yutaka Sado

Soprano: Akie Amou

Chorus: New National Theatre Chorus,
Shinyukai Choir

Speaker: Mieko Harada

Bernstein:
Divertimento
Prelude, Fugue and Riffs
Symphony No. 3
"Kaddish"

Single tickets
available from
February on

June

The 938th **Sun June 21, 15:00 start**
at Bunkamura Orchard Hall

The 134th **Mon June 22, 19:00 start**
at Tokyo Opera City Concert Hall

The 939th **Wed June 24, 19:00 start**
at Suntory Hall (Main Hall)

Conductor: Mikhail Pletnev

Shchedrin:
"Carmen" Suite
(after Georges Bizet)

Tchaikovsky:
Orchestral Suite No. 3

Single tickets
available from
February on

July

The 940th **Wed July 15, 19:00 start**
at Suntory Hall (Main Hall)

Beethoven:
Violin Concerto

The 135th **Fri July 17, 19:00 start**
at Tokyo Opera City Concert Hall

Beethoven:
Symphony No. 3
"Eroica"

The 941st **Sun July 19, 15:00 start**
at Bunkamura Orchard Hall

Conductor: Myung-Whun Chung
Violin: Mone Hattori

Single tickets
available from
February on

September

The 942nd **Fri Sep 25, 19:00 start**
at Suntory Hall (Main Hall)

Zandonai:
Opera "Francesca da
Rimini" in Concert Style

The 943rd **Sun Sep 27, 15:00 start**
at Bunkamura Orchard Hall

The 136th **Tue Sep 29, 19:00 start**
at Tokyo Opera City (Concert Hall)

Conductor: Andrea Battistoni
Francesca: Maria Teresa Leva
Paolo: Luciano Ganci
Giovanni: Franco Vassallo
Chorus: New National Theatre Chorus
and more

Single tickets
available from
July on

19
Feb

21
Feb

23
Feb

Price list

Type	SS	S	A	B	C
Single tickets	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
TPO Friends*	¥15,000	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

*Tokyo Philharmonic Orchestra Friends Discount (except for SS and Students)

Tokyo Philharmonic Ticket Service

tel: 03-5353-9522 (10am-6pm / Monday-Friday)

Tokyo Philharmonic Web Ticket Service

<https://www.tpo.or.jp/en/> (Seats are selectable, credit card accepted)



東京フィルだより

3月の定期演奏会

好評発売中



第934回サントリー定期シリーズ

3月13日(金) 19:00

サントリーホール

第935回オーチャード定期演奏会

3月15日(日) 15:00

Bunkamura オーチャードホール

第132回東京オペラシティ定期シリーズ

3月16日(月) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

指揮: ミハイル・プレトニョフ

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』(全曲)

4月の定期演奏会

好評発売中



第936回オーチャード定期演奏会

4月12日(日) 15:00

Bunkamura オーチャードホール

第133回東京オペラシティ定期シリーズ

4月14日(火) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第937回サントリー定期シリーズ

4月15日(水) 19:00

サントリーホール

指揮: 佐渡 裕

ソプラノ: 天羽明恵* 語り: 原田美枝子*

合唱: 晋友会合唱団* 児童合唱: 東京少年少女合唱隊*

バーンスタイン／

ディヴェルティメント

前奏曲、フーガとリフス

交響曲第3番『カディッシュ』*

【料金】SS(限定プレミアシート)¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※残席状況は東京フィルチケットサービスまでお問合せください。

お申込み・お問合せは
東京フィルチケット
サービスまで

Tel: 03-5353-9522 (10時～18時／土日祝休)

URL: <https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)

E-mail: concert@tpo.or.jp (お問合せ受付のみ)

インタビュー ミハイル・プレトニョフ



©上野隆文

3月と6月の定期演奏会に登場するマエストロ、ミハイル・プレトニョフ。3月はスメタナの連作交響詩『わが祖国』全曲、6月はシCHEDリンの「カルメン組曲」とチャイコフスキーの組曲第3番を取り上げます。マエストロに作品にまつわるお話を伺いました。

歴史と文化がつまった国、チェコ

チェコの首都、プラハは小さいながら大変美しい町です。最近に行く機会がないため、そろそろまた行ければと願っています。プラハにはモーツァルトが歌劇『ドン・ジョヴァンニ』を作曲した家があり、現在まで保存されています。私のお気に入りの場所です。

チェコは小さい国ではありますが、スメタナやドヴォルザークなどを輩出した「音楽の国」として傑出しています。東欧と言いつつも、チェコはヨーロッパの中心に位置し、ハンガリーも含め東欧諸国は周辺の大多数の民族に抑圧されていた時代があります。母国語で話すことすらも禁じられていました。それだけに反動として民族解放運動が起こり、民族の心を統一するような機運が自然と生まれていったのではないのでしょうか。少数の民族であればあるだけ、自分たちの民族を結束しようと、そして抑圧を排除して立ち上がろうと民族性は強まるのだと思います。ハンガリーでもそういう革命的な運動はありましたし、ポーランドではショパンが、フィンランドではシベリウスが活躍した時代に独立的な気運が高まりました。そのような時代に呼応するように、音楽家は、より民族的な精神を掻き立てられる作品を創作のテーマにしていきました。



昨年の10月定期のゲネプロ後、楽屋にてお話を伺いました

芸術による抵抗から生まれた『わが祖国』

その頃は音楽家だけでなく、優れた詩人なども生まれました。時の政権からの弾圧を受けて命が危険なときにも、命を賭して己の芸術にかけるという心意気があったのです。ショパンやリストも同様です。リストの書いた音楽を国民は支持しましたが、政府にとっては自分たちの立場を脅かすような運動に繋がる作品は邪魔なだけでした。ロシアでも、グリンカは民族的なテーマのオペラを作りましたが、貴族や支配する立場の人にとっては邪魔な存在であり、「あんな音楽は百姓どもの下らない戯言だ」と音楽を評価しませんでした。貴族はイタリアの音楽やオペラを非常に高く評価していましたが、ロシアの民族性に根ざした音楽は毛嫌いしていたのです。

様々な楽曲やオペラでチェコの民族的なものを表出してきたスメタナも、同じような立場にありました。『わが祖国』で、チェコの歴史を振り返らせるような音楽的テーマを求めていったのです。母国語で話すことすら禁止された時代に、その民族と歴史を音楽で書くということは許されがたいことでした。しかし、状況が変わり、国民が支持するようになっていったのです。

ベートーヴェンと同じく、スメタナは『わが祖国』が完成した頃、完全に聴覚をなくしています。自分の書いたものを音としては聴いていません。スメタナが作曲した当時は、全曲を通して演奏する機会はありませんでしたが、チェコの人にとっては国民的な作品。チェコが共産主義体制から解放されたとき、最初に演奏されたのがこの曲でした。チェコの人々にとっては国歌なのです。



©上野隆文

作曲家シCHEDリンとの思い出

シCHEDリンの作品は東京フィルの皆さんと演奏したことがあります。管弦楽のための協奏曲『お茶目なチャストゥーシュカ』だったと思います。ドイツ・グラモフォンからCDがリリースされていますが、これはシCHEDリンからとても良い録音だったと褒められました。シCHEDリンと私は同じピアノの先生(ヤコフ・フリエール)に学びました。最初の弟子がシCHEDリンで、最後の弟子が私。彼と私のあいだには深い縁があるのです。

彼とは色々なエピソードがあります。印象的な思い出は、彼の80歳記念のコンサート。ミッシェ・マイスキーがチェロを弾き、シCHEDリンがピアノを弾いて自身の曲を演奏したり、私とシCHEDリンとで4手の作品を演奏したり、彼の伴奏で歌曲を歌ったりオーケストラ作品を演奏したりと、様々な曲目でシCHEDリンは喜んでくれました。

夫人に捧げられた「カルメン組曲」

シCHEDリンは非常に頭のいい人でした。彼のやることは考え抜かれていて、知性の高さが感じられます。「カルメン組曲」の楽器編成も考え抜いた上での選択でしょう。弦楽器が歌う曲なのでそのために弦を重視しています。そしてバレエにとってはリズムが重要なので打楽器が多いのでしょう。

「カルメン組曲」以外にもそうなのですが、基本的に彼が書いた作品はバレリーナである夫人のマイヤ・プリセツカヤに捧げられたものです。彼女のイメージが彼の曲の中で生きている。本当に仲の良い夫婦で、いつも一緒にいました。

<3月定期演奏会>

第934回サントリー定期シリーズ

3/13(金)19:00

サントリーホール

第935回オーチャード定期演奏会

3/15(日)15:00

Bunkamura オーチャードホール

第132回東京オペラシティ定期シリーズ

3/16(月)19:00

東京オペラシティ コンサートホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

スメタナ／連作交響詩『わが祖国』
(全曲)

1回券発売中

<6月定期演奏会>

第938回オーチャード定期演奏会

6/21(日)15:00

Bunkamura オーチャードホール

第134回東京オペラシティ定期シリーズ

6/22(月)19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第939回サントリー定期シリーズ

6/24(水)19:00

サントリーホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ

シCHEDリン／カルメン組曲
チャイコフスキー／組曲第3番

1回券 Web優先発売中／一般発売2月25日(火)

Photo Reports 2020年1月のステージより

2020年最初の「午後のコンサート」は日本を代表するマエストロ、広上淳一が登場。ナビゲーターに女優の橋本マナミさんをお迎えし、オリンピック・イヤーの幕開けに相応しいテーマでお届けしました。2020シーズン開幕の1月定期は首席指揮者アンドレア・バッティストーニが登場。ピアニスト阪田知樹さんを迎えラフマニノフの難曲「ピアノ協奏曲第3番」、そしてマエストロが以前から取り組みたいと熱望していたベルリオーズ『幻想交響曲』をお届けしました。

第16回 平日の午後のコンサート <勝利へ向かってGO !>

1月17日(金)東京オペラシティ コンサートホール

指揮とお話：広上淳一 ナビゲーター：橋本マナミ

コンサートマスター：依田真宣

今井光也／オリンピック東京大会ファンファーレ

古関裕而／東京オリンピック・マーチ

ハチャトゥリアン／バレエ音楽『ガイーヌ』より

“序奏～友情の踊り～剣の舞～バラの娘たちの踊り～レズギンガ”

ヴェルディ／歌劇『アイダ』より“凱旋行進曲”

ストラヴィンスキー／バレエ組曲『火の鳥』(1919年版)

アンコール：メンデルスゾーン／劇音楽『真夏の夜の夢』より「結婚行進曲」

J.シュトラウスI／ラデツキー行進曲



東京オペラシティ コンサートホールでの新年最初のコンサートは“平日午後コン”！アンコールの「ラデツキー行進曲」ではお客様も手拍子で参加



幼少期、出身地・山形県の小学校のオーケストラでヴァイオリンを担当していたという橋本さん。マエストロと話がはずみました



終演後、マエストロ広上、橋本さん、コンサートマスター依田で記念写真

1月23日(木) 東京オペラシティ コンサートホール
 1月24日(金) サントリーホール
 1月26日(月) Bunkamuraオーチャードホール

撮影=上野隆文

指揮：アンドレア・パッティストーニ

ピアノ：阪田知樹*

コンサートマスター：依田真宣

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第3番*

ソリストアンコール

いずれもラフマニノフ／阪田知樹編

23日 ここは素晴らしい処 Op. 21-7

24日 ヴォカリーズ Op. 34-14

26日 絵画的練習曲 Op. 39 第5曲

ベルリオーズ／幻想交響曲



首席指揮者就任4年目を迎えたマエストロ、アンドレア・パッティストーニ



阪田知樹さんは東京フィル定期2回目の登場



リハーサルより



幻想交響曲で使用した「鐘」は舞台袖に配置



2020シーズンのオープニング3公演、大きな喝采をいただきました(1/24サントリー定期より)

2020シーズン定期演奏会 今後のラインナップ

4～8月の定期演奏会と午後のコンサート1回券、発売中!

最優先(賛助会員・定期会員) 発売中
 優先(東京フィルフレンズ会員) 発売中
 WEB優先(10% off) 2月24日(月)23時59分まで
 一般 2月25日(火)10時～

1回券 料金一覧

券種	SS席	S席	A席	B席	C席
1回券(定価)	¥15,000	¥10,000	¥8,500	¥7,000	¥5,500
東京フィルフレンズ	¥15,000	¥9,000	¥7,650	¥6,300	¥4,950

*東京フィルフレンズ会員(入会金・年会費無料、随時受付中)のお客様はお電話でのご注文で 各席10%オフでご購入いただけます(SS席、学生券を除く)。

3月

第934回サントリー定期シリーズ
 3月13日(金)19:00
 サントリーホール

第935回オーチャード定期演奏会
 3月15日(日)15:00
 Bunkamura オーチャードホール

第132回東京オペラシティ定期シリーズ
 3月16日(月)19:00
 東京オペラシティ コンサートホール

指揮:ミハイル・プレトニョフ

スメタナ／
 連作交響詩『わが祖国』(全曲)
 第1曲 ヴィシェフラド(高い城)
 第2曲 モルダウ
 第3曲 シャールカ
 第4曲 ボヘミアの森と草原より
 第5曲 ターボル
 第6曲 ブラニーク

1回券発売中

4月

第936回オーチャード定期演奏会
 4月12日(日)15:00
 Bunkamura オーチャードホール

第133回東京オペラシティ定期シリーズ
 4月14日(火)19:00
 東京オペラシティ コンサートホール

第937回サントリー定期シリーズ
 4月15日(水)19:00
 サントリーホール

指揮:佐渡裕
 ソプラノ:天羽明恵*
 語り:原田美枝子*
 合唱:晋友会合唱団*
 児童合唱:東京少年少女合唱隊*

バーンスタイン／
 ディヴェルティメント
 前奏曲、フーガとリフス
 交響曲第3番『カディッシュ』*

1回券2月発売

6月 第938回オーチャード定期演奏会 6月21日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール 第134回東京オペラシティ定期シリーズ 6月22日(月) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第939回サントリー定期シリーズ 6月24日(水) 19:00 サントリーホール 指揮：ミハイル・プレトニョフ	シCHEDリン／カルメン組曲 チャイコフスキー／組曲第3番 1回券2月発売
7月 第940回サントリー定期シリーズ 7月15日(水) 19:00 サントリーホール 第135回東京オペラシティ定期シリーズ 7月17日(金) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 第941回オーチャード定期演奏会 7月19日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール 指揮：チョン・ミョンフン ヴァイオリン：服部百音*	ベートーヴェン／ ヴァイオリン協奏曲* ベートーヴェン／ 交響曲第3番『英雄』 1回券2月発売
9月 第942回サントリー定期シリーズ 9月25日(金) 19:00 サントリーホール 第943回オーチャード定期演奏会 9月27日(日) 15:00 Bunkamura オーチャードホール 第136回東京オペラシティ定期シリーズ 9月29日(火) 19:00 東京オペラシティ コンサートホール 指揮：アンドレア・バッティストーニ フランチェスカ：マリア・テレザ・レーヴァ バオロ：ルチアーノ・ガンチ ジョヴァンニ：フランコ・ヴァッサッロ 合唱：新国立劇場合唱団 ほか	ザンドナーイ／ 歌劇『フランチェスカ・ダ・リミニ』 (全4幕) ※公演時間は約3時間を予定しております。 1回券7月発売

10
月

第944回サントリー定期シリーズ

10月19日(月) 19:00

サントリーホール

第137回東京オペラシティ定期シリーズ

10月22日(木) 19:00

東京オペラシティ コンサートホール

第945回オーチャード定期演奏会

10月25日(日) 15:00

Bunkamura オーチャードホール

指揮：チョン・ミョンフン

アルト：中島郁子

女声合唱：新国立劇場合唱団

児童合唱：東京少年少女合唱隊

マーラー／交響曲第3番

※公演時間は約100分を予定しております。

※休憩はございません。楽章間でのご入場は
お断りしておりますので予めご了承ください。

1回券7月発売

WEBぶらあぼ ANNEXでも聴きどころを発信中!

<https://www.ebravo.jp/tpo/>



問合せ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (10時～18時・土日祝休・チケット発売日の土曜のみ10時～16時)

URL www.tpo.or.jp/ (24時間受付・座席選択可) E-mail concert@tpo.or.jp (資料請求のみ)

4回セット券発売中!

2020シーズン 午後のコンサート 「夢見る頃を過ぎても」

午後の
コンサ
ート

渋谷の午後のコンサート 14:00開演 Bunkamura オーチャードホール

第5回 4月10日(金)
三都物語〜ウィーン・パリ・ニューヨーク〜
指揮とお話: 佐渡 裕 1回券2月発売



第6回 7月2日(木)
第2の国歌を知っていますか?
指揮とお話: 尾高忠明
ピアノ: 高木竜馬 1回券2月発売



第7回 9月8日(火)
ウィーンの森で
指揮とお話: 小林研一郎
ナビゲーター: 田添菜穂子



第8回 11月25日(水)
あの名曲アルバム
指揮とお話: 円光寺雅彦
ピアノ: 清塚信也



平日の午後のコンサート 14:00開演 東京オペラシティコンサートホール *託児有

第17回 4月8日(水)
三都物語〜ウィーン・パリ・ニューヨーク〜
指揮とお話: 佐渡 裕 1回券2月発売



第18回 6月5日(金)
250オのベートーヴェン
指揮とお話: 小林研一郎
ピアノ: 秋山紗穂
ナビゲーター: 田添菜穂子 1回券2月発売



第19回 8月4日(火)
夏のパティストーニ
指揮とお話: アンドレア・パティストーニ 1回券2月発売



第20回 10月14日(水)
夢見る頃を過ぎても
指揮とお話: 角田鋼亮
ヴァイオリン: 前橋汀子



休日の午後のコンサート 14:00開演 東京オペラシティコンサートホール *託児有

第84回 7月23日(木・祝)
勝利への行進
指揮とお話: 尾高忠明 1回券2月発売



第85回 9月6日(日)
ウィーンの森で
指揮とお話: 小林研一郎
ナビゲーター: 田添菜穂子



第86回 11月22日(日)
夢見る日々〜いい夫婦の日〜
指揮とお話: 円光寺雅彦
ソプラノ: 市原 愛



第87回 2021年1月11日(月・祝)
夢のつづき
指揮とお話: 三ツ橋敬子



東京
フィル
だより

		S席	A席	B席	C席
4回 セット券	定価	¥20,520	¥16,560	¥11,160	¥8,400
	東京フィルフレンズ 10%OFF	¥18,468	¥14,904	¥10,044	¥7,560
1回券	定価	¥5,700	¥4,600	¥3,100	¥2,100
	東京フィルフレンズ 10%OFF	¥5,130	¥4,140	¥2,790	¥1,890

東京フィルフレンズは入会金・年会費無料。入会お申込は東京フィルチケットサービスまでお電話ください。
1回券はセット券で残席がある場合のみ販売します。

1回券発売日	最優先発売 (賛助会員・定期会員)	優先発売 (東京フィルフレンズ会員)	一般発売
4~8月	発売中	2月15日(土)	2月25日(火)
9~2021年1月	7月4日(土)	7月11日(土)	7月20日(月)

梅花の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
 残寒いまだ去らぬ毎日が続きますが、
 皆様の心温める響きをお届けできますよう、楽団員と共に努めてまいります。
 引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史



賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、
 法人並びに個人（パートナー会員）の皆様のご寄附により支えていただいております。
 ここにそのご芳名を掲げ、改めて御礼申し上げます。

オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

ソニー株式会社	取締役 代表執行役 社長 兼 CEO	吉田 憲一郎
楽天株式会社	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
株式会社マルハン	代表取締役会長	韓 昌祐
株式会社ロッテ	代表取締役社長執行役員	牛腸 栄一
株式会社ゆうちょ銀行	取締役兼代表執行役社長	池田 憲人

法人会員

賛助会員（五十音順・敬称略）

(株)IHI	代表取締役社長 満岡 次郎	桜美林大学	総長 佐藤 東洋士
(株)アイエムエス	取締役会長 前野 武史	大塚化学(株)	特別相談役 大塚 雄二郎
相澤内科医院	理事長 相澤 研一	(株)オーディオテクニカ	代表取締役社長 松下 和雄
アイ・システム(株)	代表取締役会長 兼 社長 松崎 務	(公財)オリックス宮内財団	代表理事 宮内 義彦
(株)アシックス	代表取締役会長CEO 尾山 基	花王(株)	代表取締役 社長執行役員 澤田 道隆
(株)インターテキスト	代表取締役 海野 裕	カシオ計算機(株)	代表取締役社長 樫尾 和宏
ANAホールディングス(株)	代表取締役社長 片野坂 真哉	キヤノン(株)	代表取締役会長 CEO 御手洗 富士夫
(株)NHKエンタープライズ	代表取締役社長 安齋 尚志	(株)グリーンハウス	代表取締役社長 田沼 千秋

(株)ケイブ	取締役会長	高野 健一
(医)浩仁会 矢田眼科医院	理事長	矢田 浩二
コスモエネルギーホールディングス(株)	代表取締役社長 社長執行役員	桐山 浩
サントリーホールディングス(株)	代表取締役社長	新浪 剛史
信金中央金庫	理事長	柴田 弘之
新菱冷熱工業(株)	代表取締役社長	加賀美 猛
(株)J.Y.PLANNING	代表取締役	遅澤 准
(株)滋慶	代表取締役社長	田仲 豊徳
(株)ジーヴァエナジー	代表取締役社長	金田 直己
ジュテックホールディングス(株)	代表取締役社長	足立 建一郎
菅波楽器(株)	代表取締役	菅波 康郎
相互物産(株)	代表取締役会長	小澤 勉
ソニー(株)	取締役 代表執行役 社長 兼 CEO	吉田 憲一郎
ソニー生命保険(株)	代表取締役社長	萩本 友男
(株)ソニーミュージックエンタテインメント	代表取締役社長	村松 俊亮
(株)大丸松坂屋百貨店	代表取締役社長	好本 達也
高砂熱学工業(株)	代表取締役会長兼社長執行役員	大内 厚
(株)タクト	代表取締役	苗代 政治
都築学園グループ	総長	都築 仁子
(株)テクノスジャパン	代表取締役社長	吉岡 隆
東急(株)	取締役社長	高橋 和夫
東レ(株)	代表取締役社長	日覺 昭廣

トッパン・フォームズ(株)	代表取締役社長	坂田 甲一
トヨタ自動車(株)	代表取締役社長	豊田 章男
DOWAホールディングス(株)	代表取締役社長	関口 明
(株)ニチイケアパレス	代表取締役	齊藤 正俊
(株)ニフコ	代表取締役社長	山本 利行
日本ライフライン(株)	代表取締役社長	鈴木 啓介
(株)パラダイスインターナショナル	代表取締役	新井 秀之
富士電機(株)	代表取締役社長	北澤 通宏
(株)不二家	代表取締役社長	河村 宣行
(株)プライムステーション	代表取締役	浅田 亨
丸紅(株)	取締役会長	國分 文也
(株)三井住友銀行	頭取CEO	高島 誠
三菱商事(株)	代表取締役社長	垣内 威彦
三菱倉庫(株)	相談役	宮崎 毅
(株)三菱UFJ銀行	特別顧問	小山田 隆
(株)明治	代表取締役社長	松田 克也
森ビル(株)	代表取締役社長	辻 慎吾
ヤマトホールディングス(株)	代表取締役社長	長尾 裕
(株)山野楽器	代表取締役社長	山野 政彦
ユニオンツール(株)	代表取締役会長	片山 貴雄
楽天(株)	代表取締役会長兼社長	三木谷 浩史
(株)リソー教育	取締役会長	岩佐 実次

後援会員

欧文印刷(株)	代表取締役社長	和田 美佐雄
(有)オルテンシア	代表取締役	雨宮 陸美
(医)カリタス菊山医院	理事長	加藤 徹
(株)京王エージェンシー	代表取締役社長	大里 公二
(医)だて内科クリニック	理事長	伊達 太郎
(宗)東京大仏・乗蓮寺	代表役員	若林 隆壽
(一社)凸版印刷三幸会	代表理事	足立 直樹

(株)日税ビジネスサービス	代表取締役会長兼社長	吉田 雅俊
富士通(株)	代表取締役社長	時田 隆仁
本田技研工業(株)	代表取締役社長	八郷 隆弘
三菱地所(株)	執行役社長	吉田 淳一
三菱重工業(株)	取締役社長	泉澤 清次
三菱電機(株)	執行役社長	杉山 武史

ご支援のお願い

2020年1月、創立109年を迎える東京フィルハーモニー交響楽団の新シーズンが開幕しました。

東京フィルは、1月から12月までの一年を通じて、皆様の暮らしと共に響きあう音楽をお届けし、心豊かな社会へと繋ぐ役割を担います。また、定期演奏会や「午後のコンサート」、特別演奏会や提携都市公演ほか多様な音楽活動を通して、国際的に活躍する演奏家や将来を嘱望された若手演奏家等と共に様々な作品に取り組み、より多くの皆様にオーケストラの価値を認知いただけるよう尽力いたします。そして、日本の芸術文化発展に寄与すべく、多様化するグローバルな社会において文化交流の架け橋となるよう、より一層努めてまいります。

是非とも皆様方からお力添えを賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

ご寄附会員の種別

種別		年会費1口
オフィシャル・サプライヤー		詳細はお問い合わせください。
法人会員	賛助会員	50万円
	後援会員	30万円
パートナー会員	ワンハンドレッドクラブ	100万円
	フィルハーモニー	50万円
	シンフォニー	30万円
	コンチェルト	10万円
	ラプソディ	5万円
	インテルメッツォ	3万円
	プレリユード	1万円

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「賛助会デスク」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会の後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野^{かのまた}鹿文)

電話: 03-5353-9521 (平日10時~18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業一巡回公演事業一」

文化庁が主催する本事業は、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。ワークショップ(少人数での事前指導)と、オーケストラによる本公演をお届けしています。国内オーケストラでは唯一、文化庁から5年間の長期採択を受け(2014~2018年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校99校、のべ43,361名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行いました。2019年度は、これまでの訪問地域に加え、関東・東海地区の小中学校36校、のべ16,000名以上の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

留学生の演奏会ご招待…留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。チケット寄附の詳細は次ページをご参照ください。



定期演奏会に来場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンフン(2019年7月東京オペラシティ定期)
©上野隆文

東日本大震災“とどけ心に”特別招待シート

東日本大震災により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。東京フィルでは2011年4月より、震災によりふるさとから避難されている方々を当団の公演にご招待しております。ご招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までご連絡ください。

ご来場いただけなくなったチケットをご寄附ください

お手元にご来場いただけなかった公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。「留学生招待シート」、「東日本大震災“とどけ心”特別招待シート」として大切にに使わせていただきます。

【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(平日10時～18時/土日祝日休)

1月定期演奏会のチケットをご寄附いただきました。心より御礼申し上げます。

(五十音順・敬称略)

小林二郎、鈴木武史、簾智早苗、藤原清明、丸山紀子、三木美智子、山本悦子、和久井寿美子 他、匿名希望9名

特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンリーワンの特別企画を展開しております。

- ・ 周年事業として大切なクライアントを招いたコンサートを開きたい
- ・ 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- ・ 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- ・ 海外進出に伴いコンサート&レセプションパーティーを開きたい
- ・ 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- ・ 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい



東京オペラシティコンサートホールロビーにて。日本酒の試飲コーナーを設けました ©上野隆文



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

どうぞお気軽にご用命ください。

【お問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約130名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督チョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バッティストーニ、特別客演指揮者ミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルベスターコンサート』などの放送演奏、各地学校等での訪問コンサート等により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として、高水準の演奏活動とさまざまな教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を得ている。

1989年からBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2011, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrated its 100th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 130 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>   



©上野隆文

東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン
Myung-Whun Chung

首席指揮者
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ
Andrea Battistoni

桂冠指揮者
Conductor Laureate

尾高 忠明
Tadaaki Otaka

大野 和士
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー
Dan Ettinger

特別客演指揮者
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ
Mikhail Pletnev

レジデント・コンダクター
Resident Conductor

渡邊 一正
Kazumasa Watanabe

アソシエイト・コンダクター
Associate Conductor

チョン・ミン
Min Chung

永久名誉指揮者
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者
Permanent Member and
Honorary Conductor

大賀 典雄
Norio Ohga

コンサートマスター
Concertmasters

近藤 薫
Kaoru Kondo

三浦 章宏
Akihiro Miura

依田 真宜
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン
First Violins

小池 彩織☆
Saori Koike

榊原 菜若☆
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆
Natsumi Tsuboi

柄本 三津子☆
Mitsuko Tochimoto

平塚 佳子☆
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里
Eri Urata

景澤 恵子
Keiko Kagesawa

加藤 光
Hikaru Kato

巖築 朋美
Tomomi Ganchiku

坂口 正明
Masaaki Sakaguchi

佐藤 実江子
Mieko Sato

鈴木 左久
Saku Suzuki

高田 あきの
Akino Takada

田中 秀子
Hideko Tanaka

津田 好美
Yoshimi Tsuda

中澤 美紀
Miki Nakazawa

中丸 洋子
Hiroko Nakamaru

二宮 純
Jun Ninomiya

廣澤 育美
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子
Misako Fujise

松田 朋子
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン
Second Violins

戸上 真里◎
Mari Togami

藤村 政芳◎
Masayoshi Fujimura

水島 路◎
Michi Mizutori

宮川 正雪◎
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆
Mayuko Takase

山内 祐子☆
Yuko Yamanouchi

石原 千草
Chigusa Ishihara

出原 麻智子
Machiko Idehara

太田 慶
Kei Ota

葛西 理恵
Rie Kasai

黒沢 誠登
Makoto Kurosawa

高木 祐香
Yuuka Takagi

二宮 祐子
Yuko Ninomiya

山代 裕子
Yuko Yamashiro

吉田 智子
Tomoko Yoshida

吉永 安希子
Akiko Yoshinaga

若井 須和子
Suwako Wakai

渡邊 みな子
Minako Watanabe

ヴィオラ
Violas

須田 祥子◎
Sachiko Suda

須藤 三千代◎
Michio Suto

高平 純◎
Jun Takahira

加藤 大輔○
Daisuke Kato

伊藤 千絵
Chie Ito

岡保 文子
Ayako Okayasu

曾和 万里子
Mariko Sowa

高橋 映子
Eiko Takahashi

手塚 貴子
Takako Tezuka

中嶋 圭輔
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子
Tazuko Hirumi

古野 敦子
Atsuko Furuno

村上 直子
Naoko Murakami

森田 正治
Masaharu Morita

チェロ Cellos	コントラバス Contrabasses	オーボエ Oboes	ホルン Horns	トロンボーン Trombones	ハープ Harps
金木 博幸◎ Hiroyuki Kanaki	片岡 夢児◎ Yumeji Kataoka	荒川 文吉◎ Bunkichi Arakawa	磯部 保彦◎ Yasuhiro Isobe	五箇 正明◎ Masaaki Goka	梶 彩乃 Ayano Kaji
服部 誠◎ Makoto Hattori	黒木 岩寿◎ Iwahisa Kuroki	加瀬 孝宏◎ Takahiro Kase	齋藤 雄介◎ Yusuke Saito	中西 和泉◎ Izumi Nakanishi	田島 緑 Midori Tajima
渡邊 辰紀◎ Tatsuki Watanabe	小笠原 茅乃◎ Kayano Ogasawara	佐竹 正史◎ Masashi Satake	高橋 臣宜◎ Takanori Takahashi	辻 姫子◎ Himeko Tsuji	宮原 真弓 Mayumi Miyahara
黒川 実咲☆ Misaki Kurokawa	遠藤 柊一郎 Shuichiro Endo	杉本 真木 Maki Sugimoto	今井 彰 Akira Imai	石川 浩 Hiroshi Ishikawa	ライブラリアン Librarians
高麗 正史☆ Masashi Korai	岡本 義輝 Yoshiteru Okamoto	三谷 真紀 Maki Mitani	大東 周 Shu Ohigashi	平田 慎 Shin Hirata	武田 基樹 Motoki Takeda
石川 剛 Go Ishikawa	小栗 亮太 Ryota Oguri	若林 沙弥香 Sayaka Wakabayashi	木村 俊介 Shunsuke Kimura	山内 正博 Masahiro Yamauchi	永井 玉藻 Tamamo Nagai
大内 麻央 Mao Ouchi	熊谷 麻弥 Maya Kumagai	クラリネット Clarinets	田場 英子 Eiko Taba	チューバ Tubas	ステージマネージャー Stage Managers
太田 徹 Tetsu Ota	菅原 政彦 Masahiko Sugawara	チョ・スンホ◎ Sung-ho Cho	塚田 聡 Satoshi Tsukada	大塚 哲也 Tetsuya Otsuka	稲岡 宏司 Hiroshi Inaoka
菊池 武英 Takehide Kikuchi	田邊 朋美 Tomomi Tanabe	アレッサンドロ・ ベヴェラリ◎ Alessandro Beverari	豊田 万紀 Maki Toyoda	荻野 晋 Shin Ogino	大田 淳志 Atsushi Ota
佐々木 良伸 Yoshinobu Sasaki	中村 元優 Motomasa Nakamura	万行 千秋◎ Chiaki Mangyo	古野 淳 Jun Furuno	ティンパニ& パーカッション Timpani & Percussion	古谷 寛 Hiroshi Furuya
長谷川 陽子 Yoko Hasegawa	フルート Flutes	黒尾 文恵 Fumie Kuroo	山内 研自 Kenji Yamanouchi		
渡邊 文月 Fuzuki Watanabe	神田 勇哉◎ Yuya Kanda	林 直樹 Naoki Hayashi	山本 友宏 Tomohiro Yamamoto		
	斉藤 和志◎ Kazushi Saito	ファゴット Bassoons	トランペット Trumpets	岡部 亮登◎ Ryoto Okabe	
	吉岡 アカリ◎ Akari Yoshioka	大澤 昌生◎ Masao Osawa	川田 修一◎ Shuichi Kawata	塩田 拓郎◎ Takuro Shiota	
	さかはし 矢波 Yanami Sakahashi	チェ・ヨンジン◎ Young-Jin Choe	野田 亮◎ Ryo Noda	高野 和彦◎ Kazuhiro Takano	
	下払 桐子 Kiriko Shimobara	重井 吉彦 Yoshihiko Shigei	古田 俊博◎ Toshihiro Furuta	木村 達志 Tatsushi Kimura	
	名雪 裕伸 Hironobu Nayuki	廣幡 敦子◎ Atsuko Hirohata	杉山 眞彦 Masahiko Sugiyama	鷹羽 香緒里 Kaori Takaba	
		井村 裕美 Hiromi Imura	前田 寛人 Hirohito Maeda	縄田 喜久子 Kikuko Nawata	
		桔川 由美 Yumi Kikkawa		船迫 優子 Yuko Funasako	
		森 純一 Junichi Mori		古谷 はるみ Harumi Furuya	

◎首席奏者
Principal○副首席奏者
Assistant Principal☆フォアシュペラー
Vorspieler

役員等・事務局・団友

役員等(理事・監事および評議員)

理事長	理事	監事	評議員
三木谷 浩史	浮舟 邦彦	岩崎 守康	伊東 信一郎
	大賀 昭雄	山野 政彦	海老澤 敏
副理事長	大塚 雄二郎		佐治 信忠
黒柳 徹子	小山田 隆		鈴木 勲
	篠澤 恭助		鈴木 啓介
専務理事	田沼 千秋		瀬谷 博道
石丸 恭一	寺田 琢		中矢 一義
	遠山 敦子		日枝 久
常務理事	野本 弘文		南 直哉
工藤 真実	韓 昌祐		
	平井 康文		
	宮内 義彦		

事務局

楽団長	公演事業部	ステージマネージャー	ライブラリアン	広報渉外部	総務・経理
石丸 恭一	市川 悠一	稲岡 宏司	武田 基樹	伊藤 唯	川原 明夫
	岩崎 井織	大田 淳志	永井 玉藻	鹿又 紀乃	鈴木 美絵
事務局長	大久保 里香	古谷 寛		千木 加寿子	
工藤 真実	大谷 絵梨奈			二木 憲史	
	佐藤 若菜			星野 友子	
	村尾 真希子			松井 ひさえ	
				安田 ひとみ	

団友

安藤 栄作	岡部 純	河野 啓子	佐野 恭一	長池 陽次郎	細洞 寛
池田 敏美	小樽 敦子	近藤 勉	清水 真佐子	長岡 愼	本田 詩子
糸井 正博	小山 智子	今野 芳雄	瀬尾 勝保	長倉 穰司	松澤 久美子
井料 和彦	甲斐沢 俊昭	齊藤 匠	高岩 紀子	新田 清枝	湊 貞男
岩崎 龍彦	加藤 明広	坂口 和子	高村 千代子	新田 伸雄	山屋 房子
植木 佳奈	加藤 博文	嵯峨 正雄	竹林 良	野仲 啓之助	吉田 啓義
上野 眞行	金崎 真由美	嵯峨 美穂子	竹林 陽子	坂名城 昌子	米倉 浩喜
生方 正好	川人 洋二	桜木 弘子	田中 千枝	福村 忠雄	脇屋 俊介
大兼久 輝宴	木村 友博	笹 翠	田村 武雄	藤原 勲	
大和田 皓	黒川 正三	佐々木 等	戸坂 恭毅	細川 克己	

〈発行日〉 2020(令和2)年2月19日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra *無断転載を禁ず(非売品)



TOKYO PHILHARMONIC